

想定東南海・南海地震による熊野灘津波防災情報図広域版（引潮図）

計算条件：最低水面・150mメッシュ

隆起量：平均-9cm（-71cm～65cm）

この図は、想定東南海・南海地震により発生する津波を150mメッシュで計算した概要版であり、港湾や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。なお、津波防災情報図（50mメッシュ）のある海域はそれを参考にしてください。

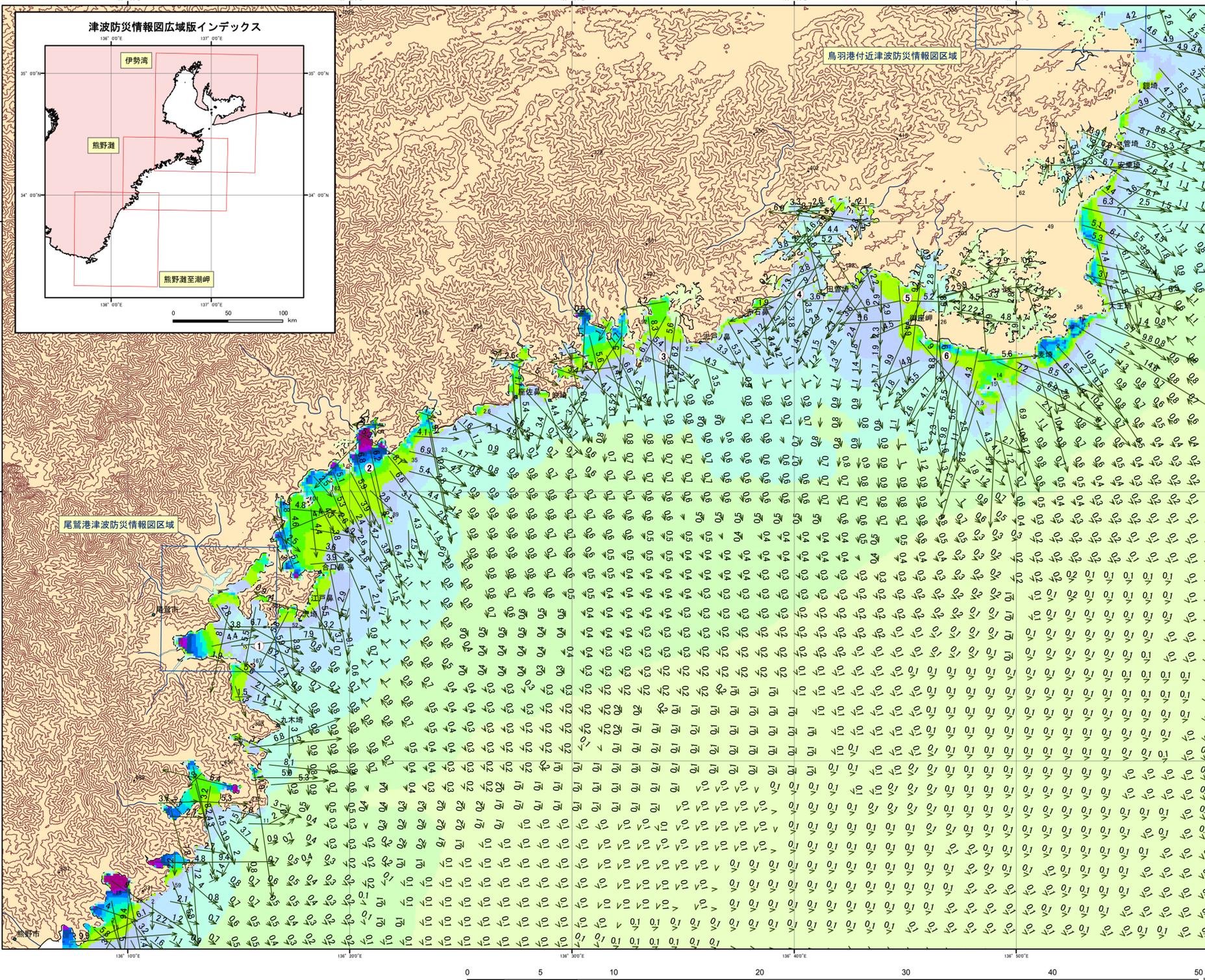
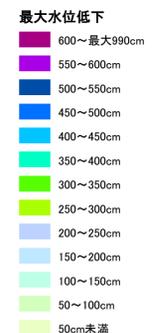


1:150,000

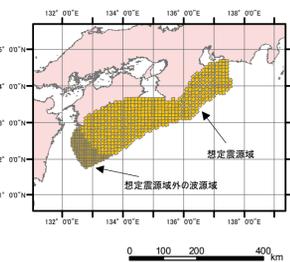
座標系：メルカトル図法 (Lat 35)
測地系：世界測地系 (WGS84)

凡例

○ 経時変化図出力点



想定震源域と波源域の位置

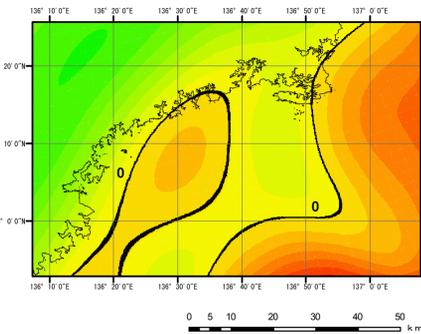


マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 × 10 ²¹	2.15 × 10 ²¹
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

地盤変動図

隆起量：平均-9cm（-71cm～65cm）



凡例



・この地盤変動図は想定東南海・南海地震で発生する地盤の隆起量を表示している。

・この図は、発生時から5時間のシミュレーションを行い作成しており、最大流速の矢印は150mメッシュ9×9（1,350m×1,350m）の81個から最大の津波（引波）の速さと方向を表示しています。
・表示されている流速矢印は津波による流速と流向のみで、海潮流の影響は考慮されていません。
・計算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-E66500、J-B1RD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作成する際の基礎データ等を使用しています。
・陸部の情報は海図から採用しています。

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

・この図は、最低水面を基準面（0cm）として、5時間の津波の水位変動と流速ベクトル（流速・流向）を表示しています。
・0分（発災時）の水位値は、その地点における地盤変動（隆起又は沈下）を表示しています。
・時間による潮汐の変化は考慮されておらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
・経時変化図の図表事項
平均水面・・・潮汐が無いと仮定したときの海面（その海域の平均水面）を赤破線で示す。
水位変動・・・刻々と時系列で変わる津波の水位変動を黒線で示す。
流速ベクトル・・・水位変動時における水平方向の海水の動きを、流速（長さ・色）と流向（360°方位）で示す。

